

1. 建築科の目標

建築に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得し、建築技術の向上と能力を育てる。

- ①建築設計製図の指導強化
- ②施設・設備の効果的活用と実習内容の充実
- ③IT教育に対応した教科内容の研究・実践
- ④各種資格・検定取得に向けての指導充実
- ⑤生徒の自主的学習態度に向けての指導強化
- ⑥施設・設備環境美化の指導強化

2. 取得可能な免許・資格等

- ・卒業後実務3年で受験資格あり
2級建築士、2級建築施工管理士、木造建築士
- ・在学中に取得可能
計算技術検定(4級～1級)、情報技術検定(4級～1級)、ワープロ検定(4級～1級)、危険物取扱者(丙種、乙種1類～6類)、アーク溶接・ガス溶接講習検定技能、小型車両系建設機械取り扱い講習
- ・卒業時に受験できるもの
建築施工技術者試験

3. 成績・評価

1) 教科(座学)

評価は1、2学期が100点法(素点)、3学期が5段階評価でだされる。定期テスト及び、毎時のノートの提出と授業態度や出席状況を見る。

定期テスト 50%	毎時のテスト 45%	態度・出席 5%
-----------	------------	----------

2) 製図

各学期、100点法(素点)で評価し、3学期にを総合的に5段階評価でだされる。評価は課題の提出状況と実習態度や出席状況を見る。ただし、1課題でも未提出ならば、学年末の評価は1になる。

3) 実習

評価は各ローテーションでの評価を各学期、100点法(素点)で評価し、3学期に4ローテーションを総合的に5段階評価でだされる。各ローテーションでの評価は課題の提出と実習態度や出席状況を見る。ただし、1ローテーションでも34点以下ならば、学年末の評価は1になる。

5段階評価	100点法
5	85～100
4	70～84
3	55～69
2	35～54
1	0～34
①	未履修

左記が5段階評価の基準点です。評価の仕方は絶対評価で、所定の点数を取れば、何人でもその得点に応じた評価を受けることができます。

表の最下段にある「①」というのはその教科の課題目標が達せされていないということと、授業時数が3分の2に満たない生徒に対してつけられる「未履修」というものです。この「未履修」が1教科でもあると進級出来ませんので気をつけましょう。

また、「34点以下」は「1」と評価され、これを単位保留といい、その科目は修得しなかったことになります。追試・補習を受けて修得することが出来ます。

正当な理由(病気、忌引き等)があつて、課題等を提出できなかった場合は、本人が担当の先生に申し出て、補習をおこなうことができる。

4. 授業の展開と形態

1) 教科 (座学)

HRクラス単位の一斉授業。①教科書、ノート、筆記用号を持って授業に参加する。
②定期考査は1学期2回、2学期2回、3学期学期末に行う。④毎週ノートを提出すること。欠席で出せない時は、後日出すこと。

2) 実習・工業基礎

10名程度を1班として4班を構成し4ローテーションで8週間で展開する。
毎時間、実習着をきちんと着用し、始業時の5分前には各班ごとに所定の場所に整列する。

3) 製図

HRクラス単位の一斉授業。①教科書、製図用具を持って建築棟製図室に集まる。
②授業前に課題の説明をし、各自、製図に取り組む②課題内容が分からない場合や不明な点がある場合には教科担当に積極的に質問する。④課題は締め切り日を守り必ず提出する。

5. 学習方法

1) 教科 (座学)

体験的に学習させ、演習なども必要に応じておこなっていく。模型や材料のサンプル及び、パワーポイント等の教育機器を活用する。

初めて学ぶ専門分野の学習であるため図書館での専門書や、インターネットを活用した、調べ学習を行い、知識の整理を行う

2) 製図

各課題での図面の内容をしっかりと理解し、積極的な姿勢で製図に取り組み、明確かつ丁寧な図面に仕上げるように努力する。
建築構造、建築計画、建築施工、建築法規、実習と関連づけることで建築を総合的に理解する。

3) 実習・工業基礎

各項目での実習の目的と内容を理解し、積極的な姿勢で実習に取り組み、課題・作品の製作や測量などの共同実習を体験的にこなす。

また、作業安全については、注意の上にも注意をはらわなければならない。